

令和5年度

鹿児島学習定着度調査について
(令和6年1月調査)

「学習者主体の授業」の更なる推進

令和6年3月



鹿児島県教育委員会

目次

I	調査の概要	1
II	学力調査の結果から	3
III	児童生徒質問紙と学校質問紙の結果から	6
IV	結果の詳細について（授業改善のポイント）	
1	小学校第5学年	
	・ 国語	11
	・ 社会	14
	・ 算数	17
	・ 理科	20
2	中学校国語	23
3	中学校社会	29
4	中学校数学	35
5	中学校理科	41
6	中学校英語	47

I 調査の概要

1 趣旨・目的

学習指導要領において身に付けることが求められている基礎的・基本的な知識及び技能や思考力，判断力，表現力等に関する学力の状況を把握するとともに，児童生徒の学習に関する意識や学び方などの学習状況を把握する。

また，各学校に全県的な傾向との比較・分析などを通じて，自校の課題を明確にさせ，問題解決的な学習活動を取り入れるなど教員の指導法改善を図るとともに，児童生徒の学力向上を図る。

2 調査の対象学年，学級等

- (1) 県内全ての公立小学校第5学年，中学校第1，2学年の全学級の児童生徒を調査対象とする。ただし，複式学級を有する学校においては，履修していない内容を調査から除外して実施する。なお，小・中学校における特別支援学級の児童生徒については，該当学年の学習内容を履修していない教科・内容を調査から除外して実施する。
- (2) 特別支援学校においては，該当学年の学習内容を履修している児童生徒を調査対象とする。

学校種	学年	実施校	調査児童生徒数
小学校(小学部)	第5学年	470校	12,981人
中学校(中学部)	第1学年	210校	12,332人
	第2学年	205校	11,925人

※ 本調査に関わる調査問題，報告書等において，義務教育学校の第7学年を中学校第1学年，義務教育学校の第8学年を中学校第2学年，義務教育学校の前期課程を小学校，後期課程を中学校と読み替えることとする。

※ 調査対象学年に在籍者がいない学校は除く。

※ 調査児童生徒数は1教科でも学力調査を実施した児童生徒の総数を示す。

※ 実施校内訳(小学校460校，中学校196校，義務教育学校9校，特別支援学校7校，県立1校計673校)

3 調査の内容

(1) 学力調査

主として「知識・技能」に関する内容と，主として「思考・表現・表現」に関する内容について，70%程度の通過率となるように出題し，調査対象教科の学力の定着状況(当該学年の12月終了程度までを範囲とする)について調査する。調査対象教科は以下のとおりである。

【小学校(小学部)】 第5学年・・・国語，社会，算数，理科

【中学校(中学部)】 第1，2学年・・・国語，社会，数学，理科，英語

(2) 学習状況調査(児童生徒質問紙)

質問紙により，調査対象者の学習に関する意識や学び方などの学習状況について調査する。

(3) 学校質問紙調査

学力向上の取組，校内研修の状況について調査する。

4 調査の実施時間

(1) 学力調査

小学校（小学部） 45分（調査票の配布・説明等5分，調査時間40分）

中学校（中学部） 50分（調査票の配布・説明等5分，調査時間45分）

(2) 学習状況調査（児童生徒質問紙）

小・中学校（小・中学部）15分程度（調査票の配布・説明等5分程度，調査時間10分程度）

5 調査の実施日

(1) 学力調査

令和6年1月16日（火） ・ 1月17日（水）

(2) 学習状況調査（児童生徒質問紙）

令和5年11月20日（月）～12月15日（金）

6 調査の採点及び結果の集計・分析

(1) 各学校・各教員

自校の児童生徒の調査について採点・集計を行い，集計結果をかごしま学力向上支援Webシステムに登録する。自校の調査結果については，保護者に対して説明責任を果たすとともに，集計表ファイルや，かごしま学力向上支援Webシステムの速報結果も参考にしながら，その後の指導方法等の改善に生かす。

(2) 各市町村教育委員会

自市町村の調査結果について，集計表ファイルや，かごしま学力向上支援Webシステムの速報結果も参考にしながら，自市町村の学力向上や指導法改善への取組に生かす。

(3) 県教育委員会

調査結果を集計・分析し，県全体の学力の定着状況や学習状況について公表するとともに，指導方法の工夫改善の参考となる資料等を作成し，各学校に配布することにより，各学校の学力向上への取組を支援する。

II 学力調査の結果から

I 全体平均通過率 [%]

結果のポイント

- 本調査は全体の目標通過率を 70% に設定しており、全体平均通過率が 70% を上回った教科は、14 教科中 6 教科でした。
- 全体平均通過率が 65% 以上 70% 未満の教科は、14 教科中 6 教科でした。
- 昨年度から 通過率が増加した教科は 14 教科中 9 教科で、減少した教科は 5 教科でした。

[令和 5 年度] ※ は、70% 以上。 は、65% 以上 70% 未満。

		国 語	社 会	算数・数学	理 科	英 語
小5	全 体	68.5	65.3	74.6	75.4	
中1	全 体	75.9	54.4	74.3	66.3	77.0
中2	全 体	65.6	62.3	68.8	66.9	71.4

(参考)

[令和 4 年度]

		国 語	社 会	算数・数学	理 科	英 語
小5	全 体	70.9	77.5	67.4	71.7	
中1	全 体	70.4	68.4	70.9	63.2	75.7
中2	全 体	71.0	55.2	72.5	62.5	67.8

[令和 3 年度]

		国 語	社 会	算数・数学	理 科	英 語
小5	全 体	72.3	79.9	70.6	73.1	
中1	全 体	73.6	70.3	66.0	69.4	71.5
中2	全 体	77.3	66.8	70.2	68.6	60.4

[令和 2 年度]

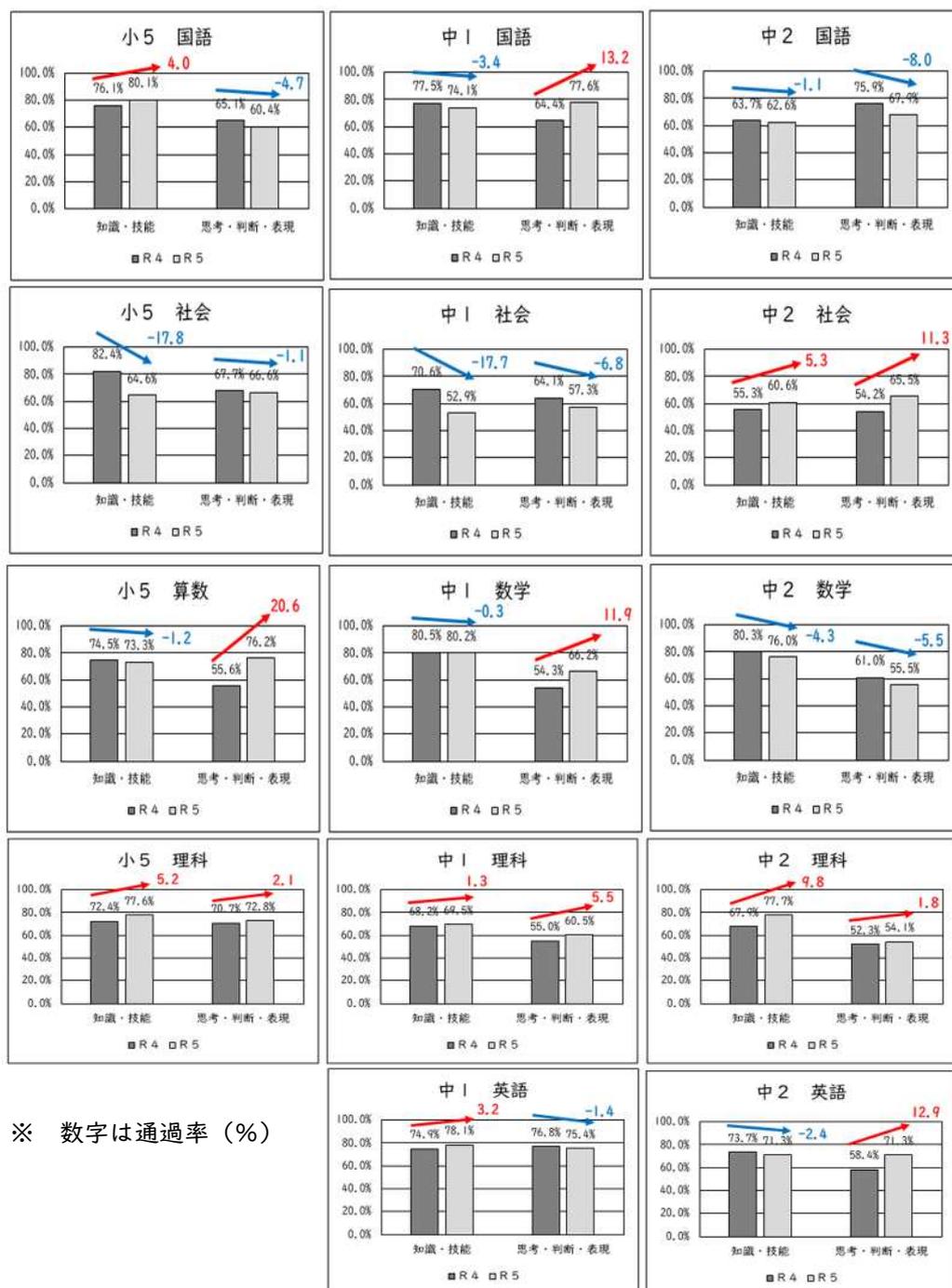
		国 語	社 会	算数・数学	理 科	英 語
小5	全 体	75.1	75.5	69.4	74.9	
中1	全 体	78.7	64.4	74.8	70.3	68.0
中2	全 体	76.7	67.6	67.0	70.8	57.8

2 各観点別の平均通過率

結果のポイント

- 観点別の通過率では、「知識・技能」において14教科中6教科、「思考・判断・表現」において14教科中8教科、両観点において14教科中4教科で昨年度を上回りました。
- 「知識・技能」において、昨年度から最も増加した教科は中2理科で+9.8ポイント、最も減少した教科は小5社会で-17.8ポイントでした。
- 「思考・判断・表現」において、昨年度から最も増加した教科は小5算数で+20.6ポイント、最も減少した教科は中2国語で-8.0ポイントでした。

[図1] 観点別通過率（令和4年度と令和5年度の比較）



※ 数字は通過率 (%)

まとめ

- 全体平均通過率においては、対象児童生徒や調査問題の内容等が異なり単純に比較はできないものの、全体平均通過率が70%を越えた教科は、昨年度より2教科少ない結果となりました。
- 観点別平均通過率においては、全体として、「思考・判断・表現」の通過率が昨年度を上回った教科が多く、全体の通過率が昨年度より大きく下がった教科においては、「知識・技能」の通過率が大きく下がりました。
- 今回の学力調査においても、全体の通過率だけではなく、各観点別の通過率にも視点をあてて分析することが大切です。
- 「知識及び技能」，「思考力,判断力,表現力等」において、どちらかに偏ることなく,バランスよく育成することを意識して,指導法改善に取り組んでいくことが大切です。
- 本調査の結果を指導法改善に生かすとともに,児童生徒が自らの定着の状況を振り返り,自らの学びに生かしていくことが重要です。
- 各教科の詳細な分析を行い、授業改善に活用してください。(11ページ以降参考。)

【小学校第5学年】

自校・自学級の結果を記入し、分析してみましょう。

	国語	社会	算数	理科
知識・技能	80.1	64.6	73.3	77.6
自校				
思考・判断・表現	60.4	66.6	76.2	72.8
自校				

【中学校第1学年】

	国語	社会	数学	理科	英語
知識・技能	74.1	52.9	80.2	69.5	78.1
自校					
思考・判断・表現	77.6	57.3	66.2	60.5	75.4
自校					

【中学校第2学年】

	国語	社会	数学	理科	英語
知識・技能	62.6	60.6	76.0	77.7	71.3
自校					
思考・判断・表現	67.9	65.5	55.5	54.1	71.3
自校					

Ⅲ 児童生徒質問紙と学校質問紙の結果から

- Ⅰ 授業に関する質問項目から
 (Ⅰ) 授業の理解に関する調査

児童生徒質問紙 結果のポイント

- 14教科中、13教科で「よく分かる」と回答している児童生徒が昨年度を上回りました。
- 「よく分かる」と回答している割合は、全ての教科において、小学校5年生が40～50%台、中学校1・2年生が20～30%台となりました。
- 社会科では、中1よりも中2の方が「よく分かる」と回答している割合が増加した。それ以外の教科では、学年が上がるにつれて、減少しました。

[図2] 授業の理解に関する児童生徒への調査結果

児童生徒質問紙 項目Ⅰ(Ⅰ)	教科	令和4年度	令和5年度
学校の授業はよくわかりますか。一つ選んでください。 「よく分かる」と回答した割合(%)	国語	小5 42.4 中1 32.9 中2 27.3	小5 43.6 +1.2 中1 36.2 +3.3 中2 31.7 +4.4
	社会	小5 47.7 中1 38.6 中2 38.1	小5 52.4 +4.7 中1 40.0 +1.4 中2 40.6 +2.5
	算数・数学	小5 50.7 中1 33.7 中2 31.9	小5 51.7 +1.0 中1 36.5 +2.8 中2 32.4 +0.5
	理科	小5 54.2 中1 35.5 中2 33.2	小5 57.2 +3.0 中1 35.6 +0.1 中2 35.3 +2.1
	英語	中1 33.8 中2 28.6	中1 35.9 +2.1 中2 28.4 -0.2

(2) 授業の内容等に関する調査

児童生徒質問紙 結果のポイント

- 【主体的な学び】
「よく行った」と回答している割合が、全ての学年で昨年度を上回りました。
- 【個別最適な学び】
「よく行った」と回答している割合が、小学校 40%台に対して、中学校は 20%台と差がありました。
- 【協働的な学び】
「よく行った」と回答している割合が、小学5年生のみ昨年度を上回りました。全体としては、40~50%台と他の項目より高い値になりました。

[表1] 授業の内容に関する児童生徒への調査結果

児童生徒質問紙 項目 (5)・(6)・(7)	小学5年生			中学1年生			中学2年生		
	R5 (A)	R4 (B)	差 (A-B)	R5 (C)	R4 (D)	差 (C-D)	R5 (E)	R4 (F)	差 (E-F)
課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか。 【主体的な学び】	31.4	29.1	2.3	24.4	22.7	1.7	23.1	20.5	2.6
自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたか。 【個別最適な学び】	43.6	40.4	3.2	25.5	24.6	0.9	20.8	19.1	1.7
話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができたか【協働的な学び】	50.1	47.6	2.5	45.7	45.7	0.0	43.9	44.2	-0.3

※ 「よく行った」と回答した割合 (%)

学校質問紙 結果のポイント

- 4項目において、「よく行った」と回答している割合が、減少しました。
- 全項目において、「よく行った」と回答している割合が、小学校 40~50%台に対して、中学校は 20~30%台と差がありました。

[図3] 授業の内容に関する学校への調査結果

学校質問紙 項目 (5)・(6)・(7)	令和4年度	令和5年度
授業において、児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか。		
授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか。		
児童生徒のよい点や改善点等を積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしましたか。		

※ 「よく行った」と回答した割合 (%)

2 「学びに向かう力、人間性等」に関する質問項目から

結果のポイント

- 【自己肯定感】
2つの項目において、全ての学年で昨年度を上回りました。
- 【粘り強さ】
全ての学年において、「当てはまる」と回答した割合が40%を上回りました。
- 【挑戦心】
中学2年生でのみ、昨年度を上回ったが、全体的に20～30%台と他と比べて低い値でした。
- 【学びに向かう力】
全学年で昨年度を上回ったものの、「当てはまる」と回答した割合が全体的に10～30%台と低い値で、学年が上がるにつれて減少する割合が大きかったです。
- 【メタ認知】
全ての学年において、昨年度を上回っていたが、「当てはまる」と回答した割合が全体的に20～30%台と低い値でした。

[表2] 「学びに向かう力、人間性等」に関する児童生徒への調査結果

児童生徒質問紙 項目 (3)・(8)・(9)・(10)・(13)・(14)	小学5年生			中学1年生			中学2年生		
	R5 (A)	R4 (B)	差 (A-B)	R5 (C)	R4 (D)	差 (C-D)	R5 (E)	R4 (F)	差 (E-F)
自分にはよいところがあるか。【自己肯定感】	36.7	36.0	0.7	30.8	29.4	1.4	31.1	28.2	2.9
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うか。【自己肯定感】	46.8	44.6	2.2	36.7	35.3	1.4	35.0	34.1	0.9
自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしているか。【粘り強さ】	45.7	46.0	-0.3	42.1	41.7	0.4	43.2	42.2	1.0
難しいことでも、挑戦しているか。【挑戦心】	33.2	35.2	-2.0	25.9	26.1	-0.2	24.9	24.5	0.4
自分で計画を立てて勉強しているか。【学びに向かう力】	31.2	30.1	1.1	20.0	19.5	0.5	16.3	15.1	1.2
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげているか。【メタ認知】	38.7	36.3	2.4	29.1	28.5	0.6	26.1	25.4	0.7

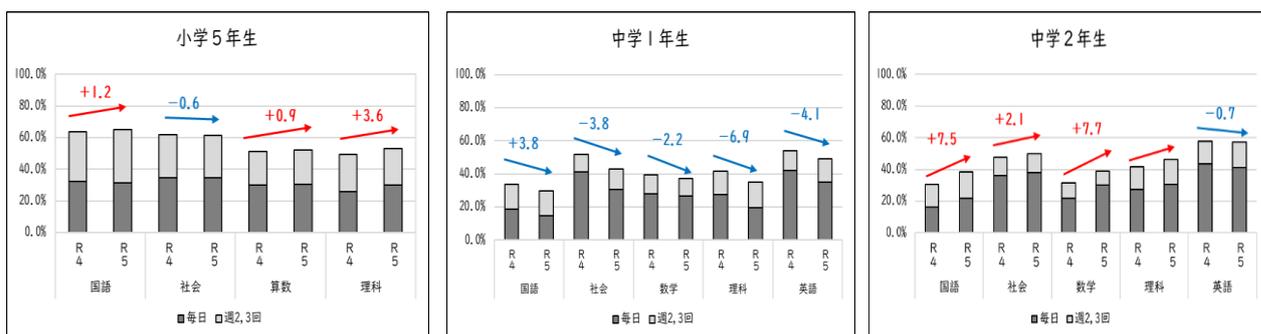
※ 「当てはまる」と回答した割合 (%)

3 ICTに関する質問項目から

結果のポイント

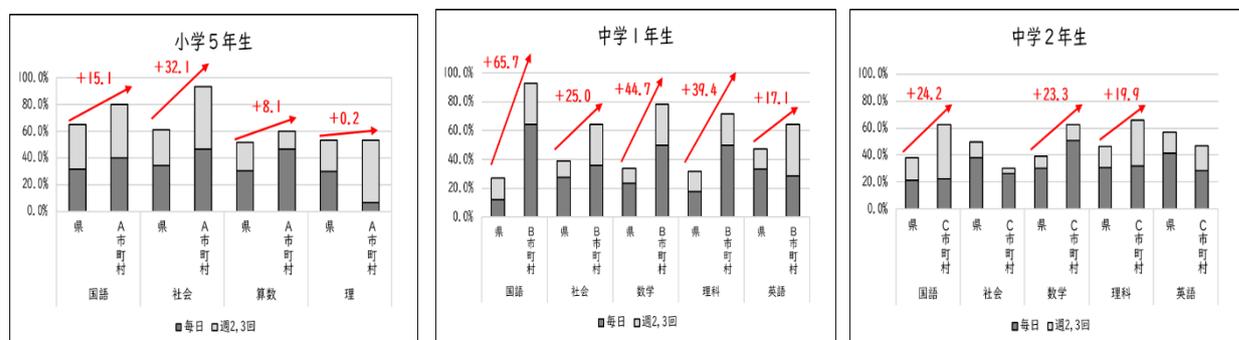
- 本年度の県平均をみると、1人1台端末等を「ほぼ毎日使用している」「週2, 3回程度使用している」と回答した割合が、小学校5年生で50～60%台に対して、中学校1年生は20～40%台、中学2年生で30～50%台でした。昨年度と比較すると、小学校5年生と中学校2年生は増加し、中学校1年生は減少しました。[図3]
- 学力調査で平均通過率の高いA, B市町村は全教科で、C市町村は3教科で、1人1台端末等を「ほぼ毎日使用している」「週2, 3回程度使用している」と回答した割合が、県平均を大きく上回る値でした。[図4]
- A市町村の小学校5年生国語, 社会、B市町村の中学校1年生国語では、1人1台端末等を「ほぼ毎日使用している」「週2, 3回程度使用している」と回答した割合が、80%以上でした。[図4]

[図3] ICTの使用回数に関する児童生徒への調査結果(令和4年度と令和5年度比較)



※ 「授業では、タブレットやパソコン、電子黒板等をどれくらい活用していますか。」という設問に、「ほぼ毎日使用している」「週2, 3回程度使用している」と回答した割合(%)

[図4] ICTの使用回数に関する児童生徒への調査結果(県とA, B, C市町村との比較)



※ 「授業では、タブレットやパソコン、電子黒板等をどれくらい活用していますか。」という設問に、「ほぼ毎日使用している」「週2, 3回程度使用している」と回答した割合(%)

※ A, B, C市町村は、各学年で通過率の特にかかった市町村

まとめ

授業の理解に関する調査

全体として児童生徒が「よく分かる」と回答している割合が増加していることから、児童生徒にとって「分かる」と実感できる授業改善が行われつつあると考えられます。

授業の内容に関する調査

【主体的な学び】，【個別最適な学び】

全ての学年で「よく行った」と回答した割合が増加しており、学習者が主体となった授業改善が図られていると考えられます。また、小学校と中学校で差が大きく、小学校の方が昨年度から増加した割合も多いことから、小学校での授業改善がより進んでいることが考えられます。

「学びに向かう力，人間性等」に関する調査

全体的に「よく行った」と回答した児童生徒の割合が昨年度より増加しており、学校がこれまで以上に非認知能力の育成を意識して取り組んでいると考えられます。

【自己肯定感】

これまで本県の課題である自己肯定感に関する項目については、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。」と実感している児童生徒の割合が増加しており、このことが「自分にはよいところがある。」と感じる児童生徒の割合の増加にも、関係していると考えられます。

【学びに向かう力】

小学校5年生から中学校1年生にかけて大きく減少しています。児童生徒に学び方を身に付けさせ、自己調整しながら学習する習慣を、小中で連携して育成していくことが大切です。

ICTに関する調査

学年，教科，市町村（学校）間において，1人1台端末等の活用頻度の差が見受けられます。好事例等を共有して共通実践するなど、組織全体で取組の良さを実感し、活用が進むような手立てが必要です。

「学習者主体の授業」の更なる推進

- 今回の調査から、「(学習者が) 主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が図られつつあること、それとともに、「知識及び技能」，「思考力，判断力，表現力等」のいわゆる見える学力だけではなく、「学びに向かう力，人間性等」の見えない学力も含めた資質・能力の三つの柱がバランスよく育成されつつあることが捉えられる結果となりました。
- 一方で、授業改善の状況について小学校と中学校で差があること，1人1台端末等の日常的な使用状況について市町村間で差があること，児童生徒が自ら学ぶ家庭での学習の在り方について課題があることが捉えられる結果となりました。
- 1人1台端末を日常的に活用しながら，小中で連携して指導法改善や家庭学習の在り方について，改善を図ることが重要です。
- 現在取り組んでいる指導法改善には，まだまだ伸び代があります。今後，児童生徒が実感を伴う，「学習者主体の授業」の更なる推進を図ることが必要です。
- 「学習者主体の授業」については，43市町村の実践例を県ホームページに掲載しています。参考にしてください。（※1）

※1 「学習者主体の授業」実践例

